

平成25年度  
工学部 FD シンポジウム  
～授業における新しい  
IT 基盤の活用について～

日時：平成25年11月15日 14:40～17:10

会場：総合研究棟1F シアター教室

主催：工学部教育企画委員会 FD 部会

共催：理工学研究科教育企画委員会 FD 部会

後援：全学教育・学生支援機構 全学教育企画室

## 目 次

- はじめに
- 式次第
- 第一部 ベストレクチャー賞表彰式
  - 1. ベストレクチャー賞について
  - 2. ベストレクチャー賞表彰式
  - 3. 講義を行うためのワンポイント・アドバイス
- 第二部 FD シンポジウム
  - ～授業における新しいIT 基盤の活用について～
  - 1. WEB クラスの活用状況
    - 講師 電気電子システム工学科 内田先生
  - 2. WEB クラス等における資料の著作権問題について
    - 講師 経済学部非常勤講師 米澤先生

## 1. はじめに

平成25年度工学部FDシンポジウムは、工学部教育企画委員会FD部会が主催し、全学教育・学生支援機構全学教育企画室の後援を受け、平成25年11月15日(金)14:40～17:30に総合研究棟シアター教室にて開催された。佐藤勇一工学部長による開会の挨拶後、司会進行は長谷川FD部会長が担当した。

シンポジウム第一部では、工学部教育企画委員会FD部会がH19年に制定し、H25年度に改訂した「ベストレクチャー賞について」の選考基準に基づき「ベストレクチャー賞」の表彰式を行うとともに、受賞された先生方に授業のワンポイント・アドバイスをいただいた。第二部では、「授業における新しいIT基盤の活用について」というテーマで、「webクラス」の授業における使用方法や活用方法などを電気電子システム工学科の内田先生から紹介頂き、その後経済学部非常勤講師の米澤先生より「教材で使用する資料の著作権について」という題名で講演をして頂いた。

なお、シンポジウムの参加者は38名であり、その内訳は下表のとおりであった。

2013FDシンポジウム出席者内訳							
所属	教授	准教授	助教	職員	学生	その他	計
機械	3	3	4				10
電気電子	3	2	1				6
情報	2	1	1				4
応用化学	1	1	2				4
機能	2	1	1				4
建設		2	1	1			4
地圏センター			1				1
環境	2	1	0				3
理工研				1			1
教育企画課				1			1
その他							0
計	13	11	11	3	0	0	38

## 2. 式次第

学部長挨拶 佐藤勇一 学部長

### 第一部 ベストレクチャー賞表彰式

1. ベストレクチャー賞について 長谷川孝明 FD 部会長

2. ベストレクチャー賞表彰式

履修者が 50 名以下の部門受賞者

履修者が 51 名以上 90 名以下の部門受賞者

履修者が 91 名以上の部門受賞者

演習の部門受賞者

3. 講義を行うにあたってのワンポイント・アドバイス

履修者が 50 名以下の部門受賞者

履修者が 51 名以上 90 名以下の部門受賞者

履修者が 91 名以上の部門受賞者

演習の部門受賞者

～休憩～

### 第二部 講演

題目 「授業における新しい IT 基盤の活用について」

・ 1. 「授業支援システム（WebClass）の活用方法」

講師：工学部 電気電子システム工学科 内田 秀和 先生

2. 「教材で使用する資料の著作権について」

講師：経済学部 非常勤講師 米澤 明 先生

閉会挨拶 池口 徹 副学部長

## ・シンポジウム第一部 ベストレクチャー賞表彰式

### ・ベストレクチャー賞について

第一部では、平成25年ベストレクチャー賞は、平成24年度に工学部で開講された講義（実験・実習を除く）を対象に、以下の選考方法に基づいて決定された。各カテゴリーの受賞科目および受賞者を下表に示す。各受賞者に対して、佐藤工学部長より表彰状と副賞（レーザーポインタ）が送られた。

### ※選考方法

## ベストレクチャー賞について

（平成19年9月3日 工学部FD部会制定）  
（平成24年2月6日 改訂）  
（平成25年7月22日 改訂）

1. 選考基準
  - ◆ 以下の対象講義条件を満たす科目のうち、「学生による授業評価」の結果が各カテゴリーで最高評価点の者をベストレクチャー賞の候補者として工学部長へ推薦する。
2. カテゴリー
  - 1) 50人までの講義
  - 2) 90人までの講義
  - 3) それ以上の講義
  - 4) 演習(授業名に「演習」と付く講義が該当)
3. 対象講義条件  
回答率6割以上、かつ回答者数10名以上

## 4. 評価点の算出方法

項目1から12までの(5, 6を除く)平均点に、「あなた自身について」の項目中「授業にどれだけ出席しましたか」の問いに対して次のように重み付けを行い、評価点を算出する。

1) ほぼ全回	そのままの点数・・・a
2) 3/4以上	点数の8割を考慮・・・b
3) 3/4未満	点数の6割を考慮・・・c

評価点 = 
$$\frac{a \text{平均} \times a \text{人数} \times 1.0 + b \text{平均} \times b \text{人数} \times 0.8 + c \text{平均} \times c \text{人数} \times 0.6}{a \text{人数} \times 1.0 + b \text{人数} \times 0.8 + c \text{人数} \times 0.6}$$

・平成25年ベストレクチャー賞

カテゴリー	科目名	受賞者
1, 履修者が50名以下の部門	環境化学計測Ⅱ	飯島 明宏 (非常勤)
2, 履修者が51名以上90名以下の部門	情報基礎	後藤 祐一 (情報システム工学科)
3, 履修者が91名以上の部門	基礎流体力学	中村 匡徳 (機械工学科)
4, 演習の部門	論理回路演習	山田 敏規 (情報システム工学科)

・講義を行うためのワンポイント・アドバイス

平成25年ベストレクチャー賞表彰式に引き続き、講義を行うにあたってのワンポイント・アドバイスについて、各受賞者にご講演いただいた。以下に、各受賞者の講演の概要を示す。

・履修者が50名以下の部門受賞者： 飯島 明宏（非常勤講師）当日欠席

・履修者が51名以上90名までの部門受賞者： 後藤 祐一 助教

情報基礎で気をつけていること

教理電子情報部門・情報領域・助教  
後藤 祐一

情報基礎とは？

- ・ 情報システム工学科1年生向けのUnix/Linux環境での計算機利用方法の導入授業
  - Unix/Linux環境上での基本操作
  - レポート作成に必要なソフトウェアの使用方法
  - レポートを含む情報発信の練習
- ・ 教員1名、TA2名
- ・ 説明30～60分、残りは実際に手を動かして演習させる
- ・ 毎回の授業で必ず課題を出す(締切りは翌週)
- ・ 説明や使用コマンドはすべてWebページに記載している

2

画面例1

**内容**

出席状況の確認、授業に参加しているのに取組していないことになっている学生は声を出してのび、ask@kisee.cca.saitama-u.ac.jp (ask@kisee.cca.saitama-u.ac.jp) → ask

- ・ 情報基礎・情報基礎実習資料
- ・ 第01回 (04/09/20)のLinux環境のインストール 初級入門(2) 出席結果
- ・ 第02回 (04/16/20)のLinux環境のインストールの続き 出席状況(01) (04月16日)
- ・ 第03回 (04/23/20)のLinux環境のインストールの続き 出席状況(02) (04月23日)
- ・ 講習休講 (04/30/20)
- ・ 第04回 (05/07/20)のLinux環境のインストールの続き 4月分行事チェック 出席状況(03) (05月07日)
- ・ 第05回 (05/14/20)のLinux環境のインストールの続き 出席状況(04) (05月14日)
- ・ 第06回 (05/21/20)のLinux環境のインストールの続き 出席状況(05) (05月21日)
- ・ 第07回 (05/28/20)のWebページによる情報発信
- ・ 第08回 (06/04/20)のWebページによる情報発信 出席状況(06) (06月04日)
- ・ 第09回 (06/11/20)のWebページによる情報発信 2013年度情報基礎実習1終了一覧 初級入門(2) 出席結果 出席状況(07) (06月11日)
- ・ 第10回 (06/18/20)のLinux環境のインストールの続き 出席状況(08) (06月18日)
- ・ 第11回 (06/25/20)の設定ファイルの編集 出席状況(09) (06月25日)
- ・ 第12回 (07/02/20)のLinux環境のインストールの続き 出席状況(10) (07月02日)
- ・ 第13回 (07/09/20)のLinux環境のインストールの続き 出席状況(11) (07月09日)
- ・ 第14回 (07/16/20)のLinux環境のインストールの続き 出席状況(12) (07月16日)

画面例2

**UNIXコマンド**

ユーザが計算機に何をしたいのかを伝えるためには、コマンド (命令) を入力する必要があります。ユーザがキーボード、マウス等の入力デバイスを用いてコマンドを入力し、計算機がモニタ、プリンタ等の出力デバイスに反応を返す。この情報の授受のことをインタフェース (Human Computer Interface) という。コマンドを文字列の形でキーボードを用いて入力するインタフェースをCLI (Command User Interface) と呼び、Linuxの基本はこれである。これに対し、画面上でコマンドと対応した画像アイコンが並び、それをマウス等のポインティングデバイスを用いて操作することでコマンドを入力するインタフェースがGUI (Graphical User Interface) である。

今日は、Linuxのシェルコマンドを説明する。ターミナルウィンドウにdateというコマンドを打ち込むという操作を以下のように表すこととする。

```
% date
-----
実際のdateというコマンドを打ってみると、以下のようなメッセージが表示される。
% date
-----
2010年04月13日 (火) 12時17分53秒 JST
-----
dateコマンドは、現在の時刻を表示させるコマンド。同様になっているコマンドを説明する。
自分のユーザー名を確認するコマンド。
% whoami
-----
% cat
-----
```

## 情報基礎で教えている内容

- Unixコマンド
- エディタemacs
- 電子メールMew
- Webページ作成
- LaTeX
- グラフ描画ソフト (Gnuplot)
- ドローソフト (Tgif, Inkscape)、ペイントソフト (Gimp)
- その他Unix Tips

5

## 2012年度の宿題

- 記事クリップ30記事(10記事/月)
- Unixコマンド復習
- エディタの練習として本の要約2冊
- 電子メールの練習として4月分記事クリップ採点
- Webサイト作成(HTMLタグを手打ちで)
- LaTeXの練習として5月分、6月分記事クリップ採点
- Gnuplotでグラフ作成
- Gimp, Inkscapeで画像作成& LaTeXでレポート化
- Zshや設定ファイルのまとめとしてWebページ作成

6

## 記事クリップブログ例



## 心がけていること

- 第1回目に授業に何を望むかアンケートをとり、情報システム工学科に対する学生の誤解を解くようにしている
- 6~7回目、14~15回目ぐらいにこれまでの授業で何が面白かったか、難しかったかのアンケートをとり、次年度以降の参考にしている
- 1年生向け授業なので、受講姿勢や大学生活に関して、メタな知識も余談として伝えるようにしている
- 採点結果、出席状況などを授業ページに掲載する

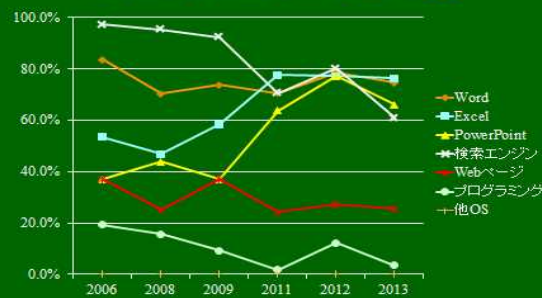
8

## 高校までの授業で習ったこと(1/2)

	2006	2008	2009	2011	2012	2013	計
MS Wordなど	83.6%	70.3%	73.8%	70.7%	78.8%	74.6%	75.6%
MS Excelなど	53.4%	46.9%	58.5%	77.6%	77.3%	76.3%	64.4%
MS PowerPointなど	37.0%	43.8%	36.9%	63.8%	77.3%	66.1%	53.5%
検索エンジン	97.3%	95.3%	92.3%	70.7%	80.3%	61.0%	83.6%
Webページの作成	37.0%	25.0%	36.9%	24.1%	27.3%	25.4%	29.6%
プログラミング	19.2%	15.6%	9.2%	1.7%	12.1%	3.4%	10.6%
UnixやMacOSの使い方	N/A	N/A	N/A	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

9

## 高校までの授業で習ったこと(2/2)



注: 2006~2009は「パソコンやワークステーションを使ってどんなことをしたことがありますか?」という質問だった

10

## わからないと思った回

	2011	2012	2013
Unixコマンド1, Webブラウザ	4.8%	1.6%	4.8%
ファイル・ディレクトリ操作	1.6%	13.1%	19.4%
エディタemacs	11.3%	3.3%	14.5%
電子メール Mew	14.5%	1.6%	25.8%
Webページ作成	17.7%	8.2%	11.3%
Unixコマンド2	22.6%	14.8%	8.1%
LaTeX	4.8%	9.8%	21.0%
グラフ描画ソフト (Gnuplot)	8.1%	13.1%	4.8%
ドローソフト (Tgif, Inkscape)	1.6%	1.6%	9.7%
ペイントソフト (Gimp)	12.9%	13.1%	3.2%
カスタマイズ	3.2%	11.5%	19.4%
SSHを使ったリモートログイン	N/A	16.4%	38.7%
zsh	N/A	4.9%	22.6%

2012年度は計算機リテラシーがもともと高かったのかもしれない

11

## 面白いと思った回

	2011	2012	2013
Unixコマンド1, Webブラウザ	19.4%	6.6%	14.5%
ファイル・ディレクトリ操作	27.4%	13.1%	17.7%
エディタemacs	30.6%	14.8%	17.7%
電子メール Mew	14.5%	8.2%	9.7%
Webページ作成	54.8%	67.2%	61.3%
Unixコマンド2	21.0%	6.6%	16.1%
LaTeX	24.2%	19.7%	22.6%
グラフ描画ソフト (Gnuplot)	14.5%	13.1%	27.4%
ドローソフト (Tgif, Inkscape)	32.3%	18.0%	46.8%
ペイントソフト (Gimp)	38.7%	57.4%	56.5%
カスタマイズ	35.5%	18.0%	12.9%
SSHを使ったリモートログイン	N/A	9.8%	22.6%
zsh	N/A	18.0%	11.3%

12



## 2012年度わからない・面白い

	わからない	面白い
Unixコマンド1, Webブラウザ	1.6%	6.6%
ファイル・ディレクトリ操作	13.1%	13.1%
エディタemacs	3.3%	14.8%
電子メール Mew	1.6%	8.2%
Webページ作成	8.2%	67.2%
Unixコマンド2	14.8%	6.6%
LaTeX	9.8%	19.7%
グラフ描画ソフト(Gnuplot)	13.1%	13.1%
ドローソフト(Tgif, Inkscape)	1.6%	18.0%
ペイントソフト(Gimp)	13.1%	57.4%
カスタマイズ	11.5%	18.0%
SSHを使ったリモートログイン	16.4%	9.8%
zsh	4.9%	18.0%

13

## 記事クリップ感想

	2011	2012	2013
記事クリップ数	30記事	30記事	30記事
採点人数 (延べ記事数)	11人 (170記事)	11人 (110記事)	11人 (110記事)

	記事クリップの感想		採点の感想	
	2012	2013	2012	2013
とてもつまらなかった	21.3%	21.0%	16.4%	11.3%
つまらなかった	50.8%	53.2%	55.7%	53.2%
つまらなかった	21.3%	21.0%	21.3%	29.0%
まったくつまらなかった	4.9%	1.6%	4.9%	3.2%

20%~25%(12人程度)の学生がつまらなかった  
と言っているのには驚いた

14

### 参考: Webアンケートシステム

- 私の担当している情報基礎、離散数学演習の小テスト、アンケートは以下のWebアンケートシステムを使っています
- ENQUETE-BAISE  
<http://rook.aise.ics.saitama-u.ac.jp/eb/>
- 上記のサービスの開発は私が行っていますので、みなさまどうぞご利用ください。
- 問い合わせ先は [gotoh@aise.ics.saitama-u.ac.jp](mailto:gotoh@aise.ics.saitama-u.ac.jp) まで

15

- 履修者が91名以上の部門受賞者: 中村 匡徳 准教授

## 2013年度ベストレクチャー賞を受賞して

「受講者が91名以上の講義」部門

機械工学科 准教授  
中村 匡徳

## 基礎流体力学

- 機械工学科 2年生 後期
- 必修
- 毎年 約130名が受講



目的:

- 流体力学の基礎を学習する  
(流体の性質 ~ 圧力, ベルヌーイの定理)
- 流体力学の面白さ・楽しさを知ってもらう

## していないことリスト

- プリント(レジュメ, ハンドアウト)の配布
- 授業中の演習・授業後の宿題
- パワーポイントの使用
- マイクの使用

これらは何かしらの効果を生み出すのか?  
超positiveに考えてみました...

## 実際の講義の流れ

- 講義開始時に10分間前回の復習
- 簡単な実験(or動画)と今日のテーマ紹介
- ひたすら説明+最後に謎解き
- 講義終了前5分間  
総括・来週の予告+演習問題推薦





## 板書命

- 1) 見逃せない(参考資料がない)
- 2) 覚える+眠気覚まし
- 3) 悩む・時として間違える
- 4) 書く・描く順番がある
- 5) リニアではないストーリー展開



↓  
思考プロセスの追体験

## 板書で気をつけていること

- 黒板を常にきれいにする
  1. 筆圧を強くしすぎない
  2. きれいに消す
- ほとんど白で書く
  1. 赤, 青, 緑は使わない
  2. 重要なところは黄色で囲む

## 超前向き思考に基づく講義考察

- 授業中の演習・授業後の宿題を出さない
  - ◆ 演習は時間がかかる→説明に時間を割く(例題はやりませ)
  - ◆ 宿題→それ以外もやってほしい(教科書問題はネットに解法&解答をUL)
- マイクは使用しない
  - ◆ 抑揚をつけやすい
  - ◆ 意気軒昂・自信満々に話す

## 普段・心がけていること

- 講義の連続性と完結性
- 歴史などの教養知識を入れる
- パラドックス・理論の反例を入れる
- なるべく講義日誌をつける

## 最後にネタばらし



授業をどうする!  
カリフォルニア大学バークレー校  
授業改善のためのアイデア集  
東海大学出版会  
Amazon, 2冊在庫有@11/13, 1575円

• 演習の部門受賞者: 山田 敏規 准教授

論理回路・論理回路演習の現状

論理回路・論理回路演習の現状  
2013年 FDシンポジウム

山田 敏規

2013年11月15日

論理回路・論理回路演習の現状

論理回路・論理回路演習

- 2年後期必修, 木曜2, 3限
- デジタル回路設計の基礎
- 電圧・電流ではなく, 0,1で信号を表現

## 2010年度まで

- 講義 … 内容説明 (プロジェクタ利用)
- 演習 … 出題と解答 (ホワイトボード利用)

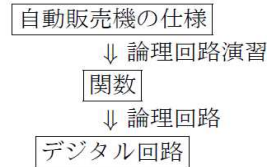
## 問題点

- 講義中、学生の集中力が保たない
- 演習時に講義資料や教科書を読んで一から勉強している (講義の意味がない!)
- 講義のみ受講している学生には理解が難しい (要望があれば別途時間を設けて演習を行っていた)

## 2011年度から

- 講義 … 論理回路の基礎 (主に設計) に関する講義・演習
- 演習 … 論理回路の理論・応用に関する講義・演習

## 例えば…



## 2011年度から

- 講義 … 論理回路の基礎 (主に設計) に関する講義・演習
- 演習 … 論理回路の理論・応用に関する講義・演習

## 利点

- 講義途中で演習を行うことで学生の集中力を維持できる。
- 講義のみを受講している学生にも演習の時間を設けることができる。

## 変更の際に困難が生じた点

- 論理回路の内容は単独で閉じている必要がある
- 論理回路と論理回路演習の内容の前後関係の調整

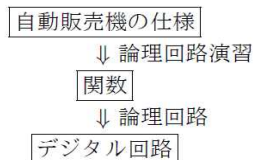
## その他に気をつけていること

- その日の講義・演習の目的を明確にする
- 演習時に手が動いてなさそうな学生には適宜アドバイスを与える
- 全体的に手が動いていない場合にはホワイトボードでヒントやアドバイスを与える

## 2011年度から

- 講義 … 論理回路の基礎 (主に設計) に関する講義・演習
- 演習 … 論理回路の理論・応用に関する講義・演習

## 例えば…



## 2011年度から

- 講義 … 論理回路の基礎 (主に設計) に関する講義・演習
- 演習 … 論理回路の理論・応用に関する講義・演習

## 利点

- 講義途中で演習を行うことで学生の集中力を維持できる。
- 講義のみを受講している学生にも演習の時間を設けることができる。

## 2011年度から

- 講義 … 論理回路の基礎 (主に設計) に関する講義・演習
- 演習 … 論理回路の理論・応用に関する講義・演習

## 利点

- 講義途中で演習を行うことで学生の集中力を維持できる。
- 講義のみを受講している学生にも演習の時間を設けることができる。

## 変更の際に困難が生じた点

- 論理回路の内容は単独で閉じている必要がある
- 論理回路と論理回路演習の内容の前後関係の調整

## その他に気をつけていること

- その日の講義・演習の目的を明確にする
- 演習時に手が動いてなさそうな学生には適宜アドバイスを与える
- 全体的に手が動いていない場合にはホワイトボードでヒントやアドバイスを与える


・シンポジウム第二部 「授業における新しい IT 基盤の活用について」

第二部では、「授業における新しい IT 基盤の活用について」というテーマで、埼玉大学で導入された授業支援システム（WebClass）を活用している状況を電気電子システム工学科の内田秀和教授より紹介して頂き、その後に活用するに当たっての注意点として「教材で使用する資料の著作権について」というテーマで経済学部非常勤講師である米澤明先生に講演頂いた。その概要を以下に示す。

・「授業支援システム（Web Class）の活用方法」

講師：工学部 電気電子システム工学科 内田 秀和 教授


FDシンポジウム  
授業における新しいIT基盤の活用について  
～ WebClassの活用法 ～  
内田 秀和



1

WebClassについて

- ・ LMS (Learning Management System) 学習管理システムと呼ばれるものの1種類
- ・ WebClassで出来ること
  - ・ 講義資料の配布と学生の利用状況の確認
  - ・ レポート課題の提示、受領、採点
  - ・ 学生へのフィードバック（双方向型）
  - ・ TAの役割分担
- ・ 埼玉大学の場合、学務の履修登録、(出席管理)と連動して、自動的にデータ入力される
- ・ 便利な部分もあるが、不便な部分もある



2

WebClassのコンテンツ

会議室

- ・ 掲示板、Wiki、チャット

資料

- ・ **資料配布**

テスト/アンケート


- ・ Web上で解答するテスト/アンケート
- ・ **レポート課題の提示/レポート提出**

ユニット

- ・ 会議室、資料、テスト/アンケートの組合せ  
(先に資料やアンケートを作ってから1つにまとめる)

学習カルテ

- ・ 授業以外で情報共有するための資料



3


なぜLMSを使うのか

学生が不利益を被らない様にする

- ・ 「同じ解答なのに採点結果が異なる」
- ・ 「講義に欠席するとリカバーできない」

教員が過負荷にならない様にする

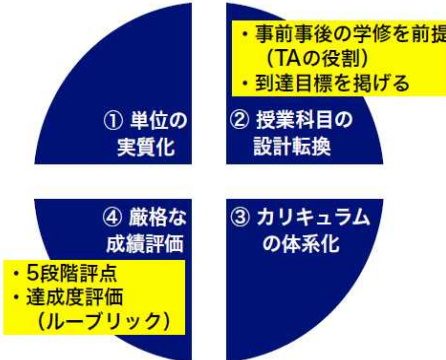
- ・ 学生に予習復習を毎回1時間ずつさせねばならない  
事前・事後学修のレポート化、自宅からの提出
- ・ TAでも評価/採点できるように評価基準を明確にする



4

教育の質的転換 251024

学生に授業の事前準備学修・事後展開学修を求める



① 単位の  
実質化


② 授業科目の  
設計転換

③ カリキュラム  
の体系化

④ 厳格な  
成績評価


- ・ 5段階評点
- ・ 達成度評価  
(ルーブリック)

- ・ 事前事後の学修を前提  
(TAの役割)
- ・ 到達目標を掲げる



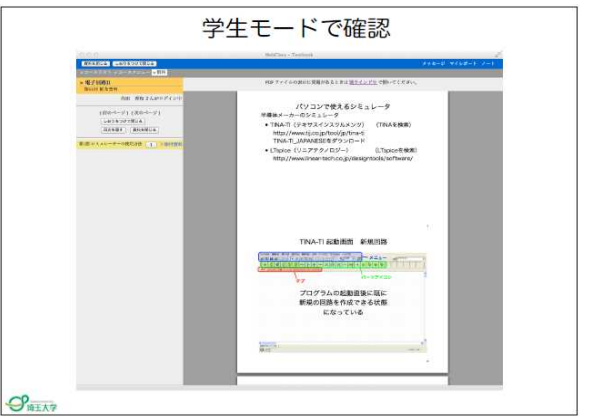
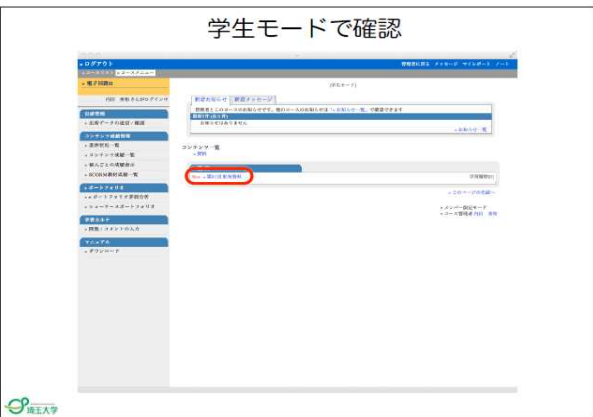
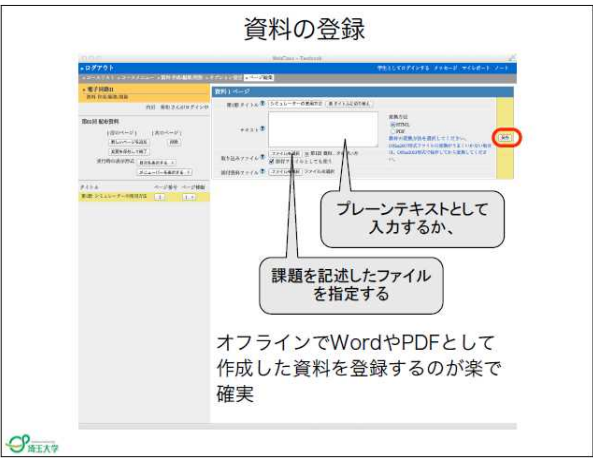
5

WEB成績登録システム から ログイン



6





## WebClass上で表示できる資料の種類

ファイルの種類	説明
Word	DOCやDOCX形式のWord文書をOpenOffice.orgを用いてHTMLもしくはPDFに変換します。
Excel	XLSやXLSX形式のExcel文書をOpenOffice.orgを用いてHTMLもしくはPDFに変換します。
PowerPoint	PPTやPPTX形式のPowerPoint文書をOpenOffice.orgを用いてHTMLもしくはPDFに変換します。
OpenOffice.org	SWX, SXD, SXI形式以外のWriter, Calc, Impress文書ファイルを取り込めることができます。
PDF	PDFファイルはそのままの状態で表示されます。
テキスト	TEXTファイルはHTMLページもしくはPDFとして表示します。
HTML	HTMLやXHTMLで書かれたHTMLファイル(ファイル名は半角英数字)を閲覧することができます。 複数のHTMLファイル、CSSファイルや画像ファイルを含む場合、ファイルへのリンクが期待される場合は、自動的にダウンロードしていただき(index.htmlを優先的に表示します)。
LaTeX	latex2htmlを用いてLaTeXのソースファイルをHTMLに変換します(数式は自動的に変換されます)。
画像	取り込める画像ファイル形式はBMP, JPEG, GIF, PNGです。
動画	取り込める動画ファイル形式はWMV(Windows Media Video), MOV(QuickTime), MPG, AVI, MP4です。
音声	取り込める音声ファイル形式はWAV(WAVE), MP3です。
Flash	FLV(動画長4.3もしくは16.9), SWF形式のFlashファイルはストリーミングで再生されます。
その他	Mobile Safari(iOS)では表示のため再生できません。 iPod/iPhone, iPod/iPad, Chem3D(ChemDraw), ChemBio3D(Chem3D)などのプラグイン形式を取り込めます。

変換精度  
HTML化 70%  
PDF化 90%

- 一度にアップロードできるファイルのサイズは、200MBまでです。ただし、HTMLもしくはPDF変換できるファイルサイズは20MBまでです。
- PowerPointファイルの音声や動画、アニメーション部分は、HTMLもしくはPDF変換を行うと、正常に表示されません。添付ファイルとしてアップロードしてください。
- LaTeXファイルの文書コードがUTF-8の場合、正常に変換できない場合があります。



## レポート課題の設定



## レポート課題の登録



## ルーブリックの設定



## ルーブリックとは

『ルーブリック (Rubric) とは、レベルの目安を数段階に分けて記述して、達成度を判断する基準を示すものである。学習結果のパフォーマンスレベルの目安を数段階に分けて記述して、学習の達成度を判断する基準を示す教育評価法として盛んに用いられるようになった。これまでの評価法は客観テストによるものが主流を占めていたが、知識・理解はそれで判断できたとしても、いわゆるパフォーマンス系(思考・判断、スキルなど)の評価は難しい。ポートフォリオ評価などでルーブリックを用いて予め「評価軸」を示しておき、「何が評価されることがらなのか」についての情報を共有するねらいもある。』

『熊本大学 基盤的教育論 鈴木克明、渡邊あや』より引用  
<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/opencourses/pf/2Block/index.html>



## ルーブリックによる達成度評価

点数化しにくい学修の状態をより客観的な指標で評価する(客観テストによる評価を置き換えるものではない)

	S	A	B	C	F
評価項目1	評価基準 1 S	評価基準 1 A	評価基準 1 B	評価基準 1 C	
評価項目2	評価基準 2 S	評価基準 2 A	評価基準 2 B	評価基準 2 C	
評価項目3	評価基準 3 S	評価基準 3 A	評価基準 3 B	評価基準 3 C	

評価	(教育の質的転換251024より)
S	到達目標を超え、特に秀でている
A	到達目標を超えている
B	到達目標に十分達している
C	到達目標に最低限達している
F	到達目標に達していない



## ルーブリックの例

学習活動	評価基準	S	A	B	C
<b>導入</b>	●筆者の考えを批判的に読む ●3つの意味段落ごとに要点をまとめる ●具体的な事例をとらえ、筆者の考えを読み取る	取り上げられている事例を解釈し、自分なりの言葉で評価できる。(批評する)	取り上げられている事例を解釈し、自分なりの意見を述べる。	取り上げられている事例を解釈し、感想を言える。	取り上げられている事例に対する筆者の考えを読み取れない。
<b>展開</b>	●筆者の考えに対する自分の考えをまとめる	筆者の言葉を取り上げ、自分の体験と関連付けながら、賛否を書く。(関連づけ)	自分の体験と関連付けながら、自分の意見を述べ、賛否を書く。	筆者の言葉を取り上げ、自分の体験と関連付けながら、賛否を書く。	筆者の考えに関連する自分の体験事例は書けない。 自分の考えがまとまらない。

JUST SYSTEMS 実践事例レポート「ルーブリックとは」 黒上 剛夫 関西大学総合情報学部教授 より引用  
<http://www.justsystems.com/jp/school/academy/hint/rubric/index.html>



## ルーブリックの例

オーストラリアの中・高等学校のマルチメディア授業  
「テレビアニメに出てくるようなスーパーヒーローを考案して、そのヒーローを紹介するシーンを30コマ程度の漫画にする」

	A	B	C	D (再提出)	NR
知識	ドローの形、輪郭、画像サイズを理解して使えます。	ドローの形、輪郭、画像サイズを理解してうまく使えます。	ドローの形、輪郭、画像サイズは理解している。	ドローの形、輪郭、画像サイズをよく理解している。	ドローの形、輪郭、画像サイズの理解が見られない。
コミュニケーション	言葉のイメージと言葉を結びつけているが、ストーリーを構成できない。	言葉のイメージと言葉を結びつけている。	言葉のイメージと言葉を結びつけている。	ストーリーが明確である。	ストーリーがない。
思考スキル	制作を表面にうまく進められている。	制作を表面に変換している。	制作を進捗にまかしている。	制作を進捗にまかしている。	制作が進んでいない。
データ収集	資料集や様々な情報源を調べている。	資料集や様々な情報源を調べている。	資料集や様々な情報源を調べている。	一つの情報源しか利用していない。	調べた情報がない。
創造性	独創的で新しいヒーローを作っている。	独創的で新しいヒーローを作っている。	うまいヒーローを作っている。	ヒーローがわかっていない。	ヒーローがない。

日本文教出版 ICT - Education No.17 関西大学総合情報学部教授 黒上 剛夫  
<http://www.nichibun.net/case/ict/17/02.php>



### メンバー (TA) の登録 / 変更 / 削除

通常の受講者は学務の受講登録で自動登録される

フルネーム  
氏名間全角スペース

または

学籍番号  
半角大文字

### TAの権限設定

利用者権限

Admin (システム管理者)  
Author (コース管理者) **担当教員**  
TA (Teaching Assistant)  
SA (Study Assistant)  
オブザーバ (Observer) **TA (私の場合)**  
ユーザ (User) **受講者**

	Admin	Author	TA	SA	Observer	User	Guest
アカウント作成	○	×	×	×	×	×	×
コース登録	○	×	×	×	×	×	×
システムの保守	○	×	×	×	×	×	×
コースメンバー登録	○	○	×	×	×	×	×
教材作成	×	○	○	○	×	×	×
教材の変換	×	○	○	○	○	○	○
出席管理	×	○	×	×	○	×	×
成績管理	×	○	×	×	○	×	×
成績閲覧	×	○	×	×	○	△	×
教材のアップロード	×	○	×	×	○	×	×
お知らせの発行	○	○	○	×	○	×	×
メッセージの送受信	○	○	○	○	○	○	×

・「教材で使用する資料の著作権について」  
講師：経済学部 非常勤講師 米澤明先生



### 教材で使用する資料の著作権 について もくじ

1. 知的財産権と知的財産権重視の背景
2. 知財立国への施策
3. 知的財産権とは
4. 著作権法での規定
5. 著作権制度
6. 特許権の活用と係争

2

### 知的財産権とは

- ・「広辞苑」での記述の変遷
- ・3版1983 無体財産権、および工業所有権を記述  
□ 知的財産権の項は無し
- ・4版1993 知的財産権の記述が出現  
□ 「無体財産権→知的財産権に同じ」工業所有権を記述
- ・5版1998 「無体財産権→知的財産権に同じ」工業所有権に不正競争防止法を追加
- ・6版2008 無体財産権→知的財産権に同じ 産業財産権の項目 工業所有権→産業財産権の旧称

3

### 知的財産権重視の背景1

- ・米国発の一編の報告書が始まり  
- ヤングレポート
- ・米国のレーガン政権が設立した産業競争力委員会: President's Commission on Industrial Competitiveness JOHN A. YOUNG HP社長の1985年の報告書  
Global Competition—The New Reality  
- アジア諸国を中心とした模倣品により、米国の財産が侵害され、雇用の機会が奪われている。  
- スプートニクショック以来の問題。

4



## 知的財産権重視の背景2

- ・ヤングレポート
  - 新技術の創造・実用化・保護
  - 資本コストの低減
  - 人的資源開発
  - 通商政策の重視 → TPPなど

5

## 知財立国に向けて1

- ・知的財産戦略大綱 2002年7月3日  
創造戦略
    - (1) 大学・公的研究機関等における知的財産創造 論文と教育から特許も重視
    - (2) 企業における戦略的な知的財産の創造・取得・管理
    - (3) 創造性を育む教育・人材養成の充実
- 保護戦略、活用戦略

6

## 知財立国に向けて2

- ・法制上、財政上の施策
  - 研究者の育成、研究施設等の整備、研究開発資金の効果的な使用
  - 大学等の研究成果の適切な管理、事業者への円滑な移転 —— TLO: Technology Licensing Organization、地域オープンイノベーションセンター
- ・日本版バイ・ドール制度の拡充

7

## 知的財産権とは

### ・著作物→著作権

- ・ 発明→特許権
- ・ 考案→実用新案権
- ・ 植物の新品種→育成者権
- ・ 意匠→意匠権
- ・ 商標→商標権
- ・ その他の知的財産に関して法令により定められた権利又は法律上保護される利益に係る権利  
回路配置利用権  
ノウハウ、商号及び不正競争防止法上の利益

8

## 著作権制度

- ・ 著作物: 小説、講演、音楽、美術、映画、コンピュータ・プログラム、データベースなど
- ・ 著作者: 著作物を創作した者
- ・ 無方式主義
  - 著作者の権利: 著作物を創作した時点で自動的に付与され登録等は不要
- ・ ベルヌ条約 文学的及び美術的著作物の保護に関するベルヌ条約
  - 登録不要 外国での権利取得が容易

9

## 著作権法1

- ・ 著作権法 第一条  
この法律は、著作物並びに実演、レコード、放送及び有線放送に關し  
著作者の権利及びこれに隣接する権利を定め、これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ、著作者等の権利の保護を図り、もつて文化の発展に寄与することを目的とする。

10

## 著作権法2

- ・ 著作権が保護対象とする著作物
- ・ 著作権法第2条
  - 著作物 思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するものをいう。
- ・ 表現に創作性があれば著作物に
- ・ 事実とアイデア、創作性のないもの、ありふれた表現、報道の事実部分等は著作物ではない。

11

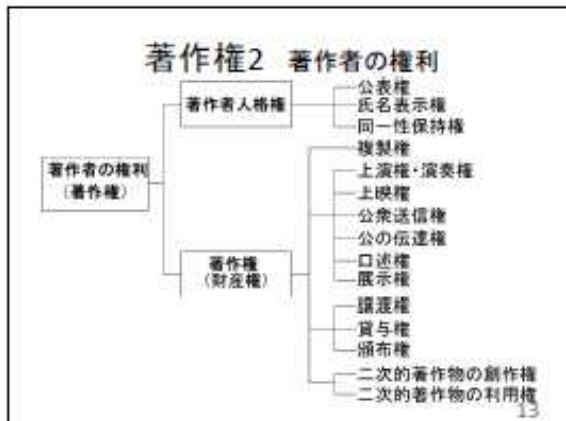
## 著作権1



著作権は無登録主義  
「著作権」という用語が広狭様々な意味  
死後50年が原則

12





- ### 著作権2-1
- 公表権
    - 無断で公表されない権利
    - 未公表の著作物の著作権を譲渡した場合等は公表に同意と推定
  - 氏名表示権
    - 名前の表示をするかしないか、本名かペンネームかを決定する権利
  - 同一性保持権
    - 無断で改変されない権利
    - 歌手の歌が下手・印刷機の性能の問題など不可抗力は除く
- 14

- ### 著作権2-2
- 複製権
    - 無断で複製されない権利、手書き、印刷、ハードディスク、サーバーへの蓄積なども
    - 形のある物に複製する手段を問わない
  - 上演権・演奏権・上映権
    - 無断で公衆(「不特定の人」又は「特定多数の人」)にCDやDVD再生を含む、上演・演奏・上映されない権利
  - 公衆送信権-無断で公衆に送信されない権利
  - インターネットなどを通じた「自動公衆送信」、「送信可能化」等を含む
- 15

- ### 著作権2-3
- 公の伝達権
    - 無断で受信機による公の伝達をされない権利
    - 例外 営利を目的とせず、聴衆・観衆から料金を受けず、通常の家庭用受信機を用いること
  - 口述権 無断で公衆に口述されない権利
    - CDなどに録音された著作物の再生や、離れた場所にあるスピーカーによるものも含む
  - 展示権 無断で公衆に展示されない権利
    - 美術の著作物の原作品と未発行の写真の著作物の原作品の展示
- 16

- ### 他人の著作物の利用
- 利用者の了解を得る契約
  - 了解を得なくともよい場合
    - 保護対象となる著作物ではないもの
      - 政府刊行物等
    - 権利制限規定による例外として列挙のものに限る
      - 日本では、Fair Use Doctrineなし
- 17

- ### 例外的な無断利用1
- 私的使用のためのコピー(複製)
    - 家庭内など限られた範囲、仕事以外の目的
    - 使用する本人がコピーする
    - 誰でも使える状態で設置してあるダビング機などを用いないこと、当分の間は、コンビニのコピー機など「文献複写」のみに用いるものは除く
    - コピープロテクションの解除、著作権を侵害したインターネット配信と知りながらのDLは除く
  - 私的録音録画補償金制度 CD-R/DVD-R
- 18

- ### 例外的な無断利用2
- 教育機関での複製
  - 主会場の教室で使用する教材を副会場の教室へ同時中継
  - 中継は授業を受ける者のみへの送信
  - 既に公表された著作物であること
  - 「司法」「行政」のための内部資料
  - 「特許審査」、「薬事に関する事項」などの行政手続
  - 「非営利・無料」の場合の「上演」「演奏」「上映」「口述」「貸与」など
- 19

- ### インターネット利用の配信1
- 公衆送信権に含まれる
  - 同一構内において送信する行為は公衆送信行為に含まれないことを規定
  - ただし、プログラムの著作物は、構内限定でも公衆送信権の侵害と規定
- 20

## インターネット利用の配信2

- 検討課題
  - WEBクラスは構内限定で実現可能か
  - 教材の著作権をもれなく確認し、著作権侵害の疑念をいだかせないチェック体制の確立は可能か
- 対応策
  - WEBクラスでの資料の入手は、構内に限定することが無難

21

## 著作権侵害での提訴

- 提訴は全国の地方裁判所が原則
  - 対応には多大な費用、時間を要す  
(特許等の技術系事件の侵害事件は、東日本は東京地裁、西日本は大阪地裁)

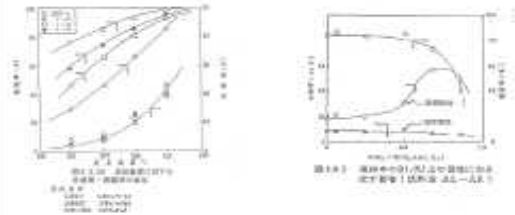
22

## 大学を著作権法違反で提訴

- 京都大学博士論文事件1 埼玉地裁→高裁
  - 重質油対策技術研究組合のプロジェクトの成果を博士論文に掲載
  - 実験結果等のデータ自体は、事実又はアイデア。著作物ではない以上、そのようなデータを一般的な手法に基づき表現したのみのグラフは、多少の表現の幅はあり得るものであっても、なお、著作物としての創作性を有しないものと解すべきである。

23

## 京都大学博士論文事件2



24